

3学部参加し合同 I P E

チーム医療に理解深める



仮想症例をもとに議論

京都薬大、京都橘大

京都薬科大学と京都橘大学は15日、京都市内の京都薬大キャンパス内で、多職種連携教育（IPE）を合同で実施した。医療系3学部の学生が職種の垣根を越えて学び合い、チーム医療に対する理解を深めた。

当日は京都薬大の薬学部 人が講義室に集まり、教員生11人、京都橘大の看護学から示された仮想症例をもとにグループディスカッションを実施した。

仮想症例の患者は68歳代男性。脳梗塞で緊急入院した後、治療、リハビリを経て退院した。食事はほぼ自立して行えるが、排泄動作は介助を

必要とし、退院後は男性の妻が服薬を管理する予定。介護サービス活用の可能性もある。

この仮想症例について、両大学は、2016年度同じ学科の学生で編成したグループで議論し、結果を発表した後、3学部の学生を混合したグループで再び議論した。薬剤師、看護師、理学療法士それぞれの視点を学び、チーム医療の有効性を体感した。

両大学は、2016年度から合同でIPEを開催しており、今回が7回目となる。職種の垣根を越えた学びの場を設け、チーム医療の発展、タスク・シフティング推進などにつなげたいと考えた。